

第4回 卒業設計コンクール展

最優秀賞

日本工業大学工学部建築学科
武田 幸司

CREATOR'S INDEX
～都市複合施設による新宮下公園計画～

近年、建築、アート、音楽などの表現活動の分野は、コラボレーションや野外でのインスタレーション、パフォーマンスなどを通して都市の中に溢れ出し、個々の領域内では想定できなかったほど表現の可能性を広げつつあることから、現代の表現活動のためには、既存のビルディングタイプでは補いきれない複数のプログラムを並立することが可能な空間が必要である。

多くのクリエイターが集う渋谷、原宿、表参道は、若者のカルチャーシーンの中心にあり、これらの接点に宮下公園がある。しかし、この公園はアクセスの便が悪く、有効に機能していない。

そこでこの計画では、これまでの公園の機能にレストラン、カプセルホテル、カラオケボックスなどの都市的機能、ショップやスタジオ、ライブハウスなどのクリエイターのための機能を付加した空間を提案する。

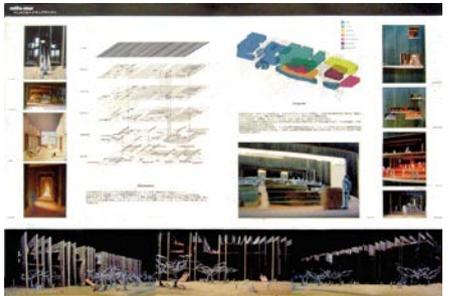
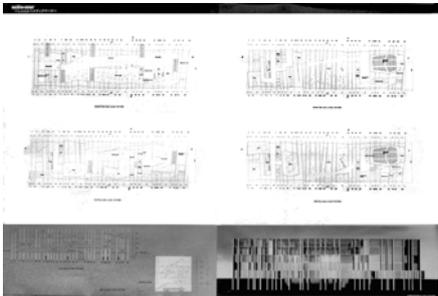
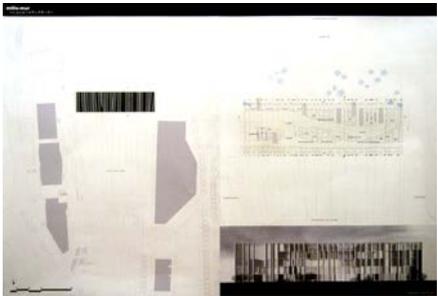
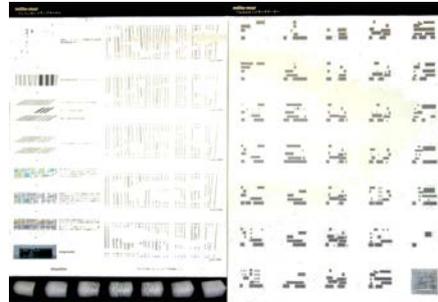
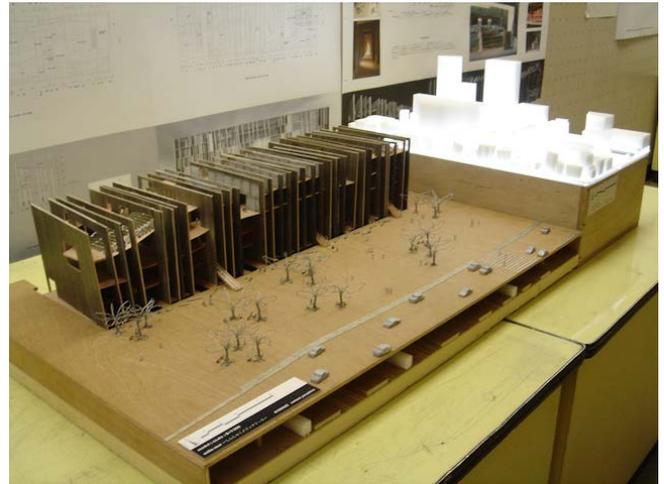
周辺の環境から構成を導き出し、人の流れや動きを誘発する端緒とする。

これらのことにより、多様なジャンルが複合され、渋谷がもつ場所のコンテキストとクリエイターの活動が触発しあう、新たな宮下公園が生まれるだろう。



現在新宿の南口正面では再開発が行われている。

そこは線路の上部がポックリと又けており人工的に遮られた void が存在する。それは正面に向けた気持ちよい空間となっている。私は今回 void の存在を残す建築物を、連続する垂直の壁のボリュームを挿入し繋いでいくことで、南口正面方向に壁を用いることなく建築をつくることができ、正面に又けを獲得することができるのではないだろうか考える。また建築の中を動く人々が目に飛び込んでくることになり、その行為が建物外部に溢れ出る建築をこの敷地に提案する。そうすることで人工的に作られた void を生かしながら建築を作ることができるのではないだろうか考える。垂直方向における壁の連続体のシークエンスにおいては穴の連続により境界が認識できる。壁に水平方向に向く時、視界は開け境界は天井と壁で規定される。そのぶつかりの中にさまざまなアクティビティが起こることを期待している。



優 秀 賞

工学院大学工学部建築学科
片桐 和也

「アートネットノウズマクトシラオウダ ンスル」

キャンパスと鉛筆から始まるアート。アートがアートだけで成立しない時代、アートは様々なものに寄生し進化している。自然、情報、社会・・・多様な変貌を遂げている。そんなアートの生まれる場所のあり方はいったいどんなものだろう。それはスタジオ単体で成立するものではなく、アートがたどってきた進化と同様、周辺の様々なものに寄生し、影響を受けながら存在していく、周辺のコンテクストに寄生しネットワークを形成しながらアートという多様なものへアプローチしている。そのネットワークの核となる施設としてのアーティスト・イン・レジデンスを提案する。それはやがて人々の流れを作り都市を横断しながら広がっていく。垂直方向における壁の連続体のシークエンスにおいては穴の連続により境界が認識できる。

壁に水平方向に向く時、視界は開け境界は天井と壁で規定される。

そのぶつかりの中にさまざまなアクティビティが起こることを期待している。

